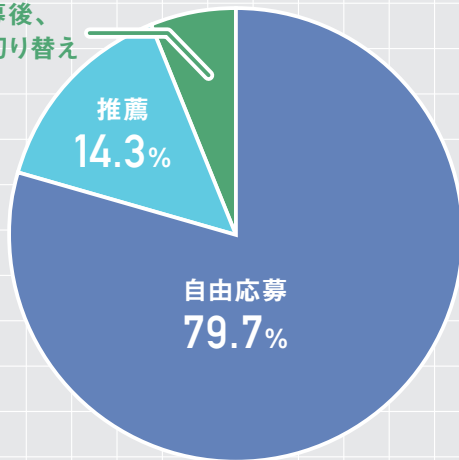


自由応募後、  
推薦に切り替え  
6.0%



## 内定先企業への 応募方法

かつては推薦を利用して就職することが多かった理系学生ですが、近年では自由応募による就職活動が多数派となっています。金融やコンサルといった専攻分野とは直結しない業界だけでなく、メーカーやITなどでも自由応募を中心に活動している理系学生は珍しくありません。

調査対象：理系ナビ2018会員 調査期間：2017年6月～7月 回答数：217名  
調査方法：インターネット調査（回答フォームへの記入）

# 就職活動

進め、どんな業界・会社を選んだのか…。このページでは、理系の先輩たちの各種データを集計しました。先輩たち読み解いてみましょう。

## 内定承諾の決め手

内定承諾の最終的な決め手で1位となったのは「仕事内容」。「この仕事をしたい!」という想いが決め手となった方が多いようです。仕事内容を選んだ方のコメントを見ると、「職種」だけでなく、自身が望むワークスタイルを叶えられる企業であることが決め手となっているようです。

### 1位 仕事内容

「世界トップレベルの研究に取り組めるから」  
「事業領域が幅広く、  
様々な仕事に挑戦できると考えたから」

### 2位 社員の魅力

「一緒に働きたい、  
目標にしたいと思える社員が多かった」  
「対応から誠実さを感じたから」

### 3位 社風

「会社の雰囲気が自分に  
マッチしそうだと思ったので」

### 4位 規模・影響力

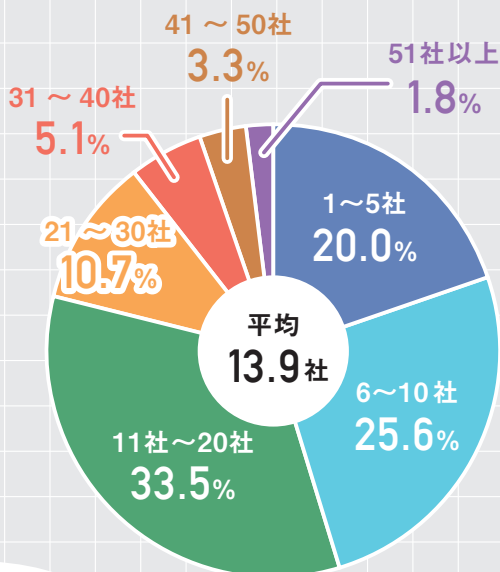
「業界大手で社会的な影響力が大きいから」  
「会社の規模と安定性、財務基盤などから  
総合的に判断」

### 5位 成長できる環境

「若いうちから様々なプロジェクトに  
挑戦でき、成長できそうだった」  
「教育体制や研修制度が充実していた」

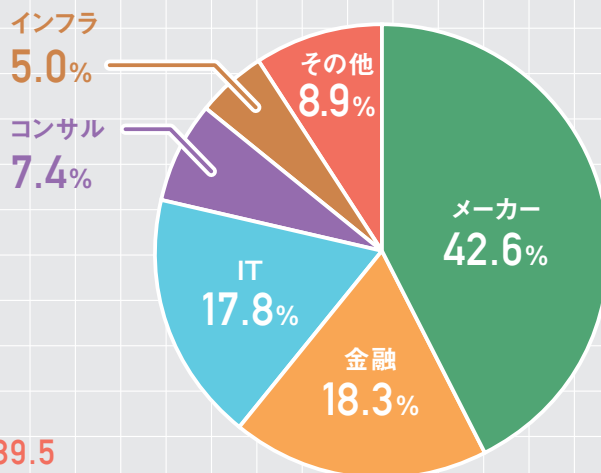
## エントリーシート提出数

理系は厳選してエントリーしている学生が多く、多数派は「11～20社」です。とはいえ、推薦応募ではなく、自由応募をメインに就職活動を進めている方や、いわゆる文系職種を志望している方のエントリー数は比較的多めの傾向があります。



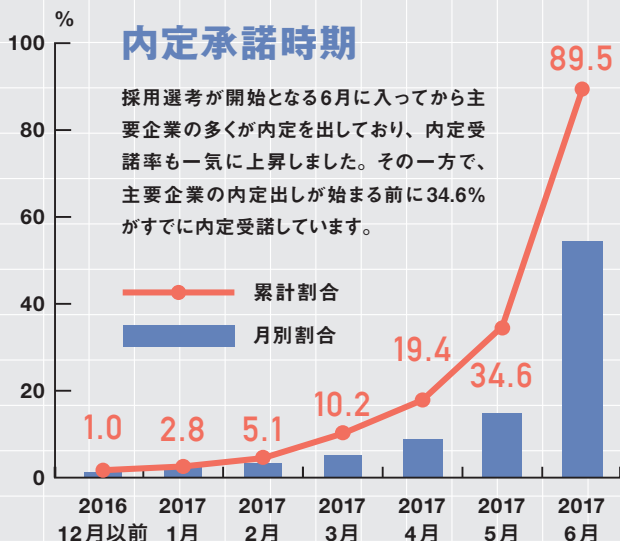
## 内定承諾業界

内定を承諾した企業の業界については42.6%をメーカーが占め、金融、ITがそれに続きます。さらに内訳の業態を見るとメーカーでは総合電機、自動車、素材などの技術系職種、IT業界ではSIerのSE。金融系では数理能力を活かせるアクチュアリーなど金融専門職への内定が多く見られます。その他は商社、マスコミ、研究機関などがありました。



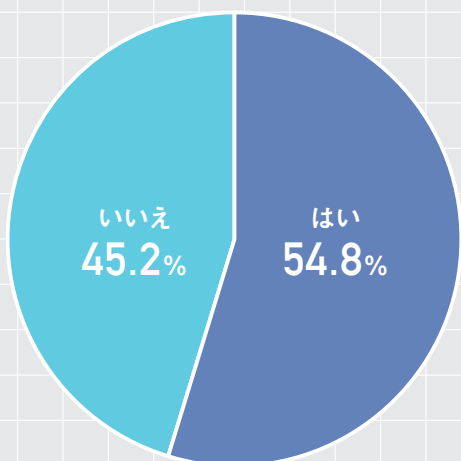
## 内定承諾時期

採用選考が開始となる6月に入ってから主要企業の多くが内定を出しており、内定承諾率も一気に上昇しました。その一方で、主要企業の内定出しが始まる前に34.6%がすでに内定承諾しています。



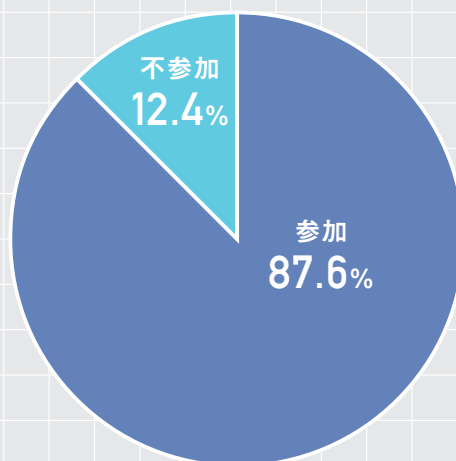
# データで見る 理系の

理系の先輩たちは就職活動をどのように2018年卒業予定で就職活動に臨んだがどんな就職活動をしたのか、データから



## 専攻・研究分野を活かせる仕事を希望したか

大学での専門性を活かせる仕事に就きたいと考えていた理系学生は54.8%。いいえと答えた方は「専攻にとらわれず幅広い仕事を見てみたかった」「自分の専攻を仕事にするのは難しいと思ったから」といった意見がみられました。



## インターンシップ参加率

以前はインターンシップといえば夏の開催が主でしたが、近年は秋から冬にかけても多数のインターンシップが実施されています。これに伴い、学生がインターンシップに参加する機会が増加。昨年よりインターンシップに参加した学生が12%も増えています。